

の時其傍らにマクダレナのマリヤとシヤコボ、ヨゼフの母なるマリヤと居たりと記せり又ヨハ子福音書第十九章第廿五節に耶蘇死去の時聖母マリヤとマリヤの姉妹及びクレナハの妻のマリヤ並びにマクダレナのマリヤ其十字架の傍らに立ちと記せり之に由て考うれば聖母マリヤと記せし外は決して聖母に非らざると判然たり又クレナハの妻のマリヤはシヨセフ、シモン、シヤコボ及びピユダ四人の母なり新約聖書シユダ書第一章第一節に吾は救世主の僕シヤコボの兄弟と記せり若シユダが耶蘇の兄弟なれば吾は救世主及び

シヤコボの兄弟と云うなるべし且ヨハ子福音書第十九章第廿六廿七の兩節に耶蘇死去の時聖母マリヤを以てヨハ子の母とせられたるとあり若聖母マリヤに四人の子あれば耶蘇はヨハ子の母とせよとは云ふ可き理由なし又舊約時代に於てロットはアブラハムの甥なれども之を稱して兄弟と云ひ又トビヤ聖人の從弟も之を稱して兄弟と云へり(舊約聖書創世記第十二章第五節及第十三章第八節第十四章第十四節同上トビヤ書第七章第二節乃至四節

第六章 聖會の事

問 耶蘇の使徒十二人が聖靈の賜ものを受けたる結果如何

答 彼等は聖靈の冥助により従來教理に暗かりしものも

俄るに聖教の奧義に通じ従來外國語を知らざりしものも

俄かに万國の言語に通じ愚者は智者に變じ怯者は勇者に化したり(新約聖書使徒行傳第二章乃至第四章)

章)

問 其后使徒等は如何せしや

答 彼等は万國に分行して聖教を擴布し千辛万苦を冒して世人を誘導し許多の奇跡を顯はして聖教の聖且つ

真たる所以を立証し終に聖教に殉して致命せり是れ實に今日の聖會の濫觴なりとす(新約聖書使徒行傳及使徒等各書翰)

問 是より以前には聖會なかりしや

答 否開闢より聖教ありし如く聖會も開闢より存せり但だ今日の如く形式上完全の聖會を成立せしは使徒等の

のときなりとす(舊約聖書民政記畧第十九章第二十節及第二十章第四節)

問 然らば開闢より存せし聖會を更に今日の如く完成したるものは耶蘇なるや

答 然り(新約聖書マテヲ福音書第五章第十七節)

問 聖會の教理教政は時と所と人にと由て變更するもの

なるや

答 否變更するものに非らず(新約聖書ルカ福音書第廿四

章第四十六四十七兩節)

問 聖會の首領即ち教王は誰れなるや

答 耶蘇なり(新約聖書エフエゾ書第一章第二十二節及第

五章二十三節)

問 耶蘇の代理者あるや

答 有り最初の代理者は十二使徒の中聖ペートルにして

爾後の代理者即ち后嗣者は羅馬の法皇なり(新約聖書

マテヲ福音書第十六章第十八十九兩節ニ七一公教議

會の第六議定書及聖會歴史)

問 聖ペートルが耶蘇の代理者たるとは根據ある確説な

るや

答 然り耶蘇曾てペートルに謂て曰く汝は磐石なり我此

磐石の上に吾教會を建設せん魔鬼は之を如何とも爲

すべからず我汝に天國の鑰を授けん凡そ汝が地に於

て繫ぐものは天に於ても繫がるべし汝が地に於て解

くものは天に於ても解るべしと又曰くシモン(ペルト

口名の別名)よシモンよ「サタン」(魔鬼)汝を索めて麥の如く簸揚せん然れども汝の信仰絶へざる様汝の爲に祈れり汝歸らんとし其兄弟を堅固にせよ」と又曰く汝我の羔を牧せよ」と亦我羊を牧せよ」と是れなり(新約聖書マテヲ福音書第十六章第十八十九兩節同上ルカ福音書第二十二章第三十一三十二兩節同上ヨハ子福音書第二十一章第十五節乃至第十七節)

問 最初の教王(ペートル)と示後の教王(羅馬法皇)と其位權は同一なるや

答 然り例へば國王は代々繼承して其人を異にすと雖も

其位權は毫も變更なきが如し

問 教王聖ペートル及び其後嗣者羅馬法皇は聖教の傳授上誤謬に陥いる憂ひなきや

答 然り其証は耶蘇曾てペートルに謂て曰く「我汝の信仰の絶ゆる様汝の爲めに祈れり汝歸らんとし其兄弟を堅固にせよ」と是れペートルに對する聖言なりと雖も父母の權義は子孫に遞傳する如くペートルに對する聖言は延ひて其後嗣者たる羅馬法皇に遞傳するなり(新約聖書ルカ福音書第二十二章第三十二節同上マテヲ福音書第十六章第十八十九兩節)

問 然らば羅馬法皇は如何なる場合に於ても決して罪科

に觸るゝとなきや

答 否、法皇と雖も人間なれば毫も罪科に觸るゝとなしと

斷言すべからず

問 法皇の次位者は誰れなるや

答 司教なり司教は大教區を管轄す例へば東京の大教區

は東京の司教之を管轄するが如し(新約聖書使徒行傳

第二十章第廿八節)

問 司教の次位者は誰れなるや

答 靈父なる靈父はソキニクシヤノモ小教區を管轄す例へば名古屋の小教

區は名古屋の靈父之を管轄するが如し(新約聖書テモ

テナ第一書第四章第十四節及第五章第十七節同上テ

ト書第一章第五節)

問 使徒十二人は誰々なるや

答 ペートル、アンデレヤ、ゼベデノヤコボ、ヨハ子、フィリツ

ポ、バルトロメヲ、アルフエノヤコボ、トマス、マテヲ、タデ

ヲ、シモン、ユダス等の十二人は是れなり(新約聖書マテ

ヲ福音書第十章第二節)

問 後來撰任せられたる使徒はなきや

答 有り乃ち前記十二人中ソユダスは後來主に背反して

魔鬼の奴隷となりしにより其代員としてマチアスを
撰任し又バルナバ及びボロを撰任し都合使徒十五
人と爲れり(新約聖書使徒行傳第十三章第二節及第十
四章第十三節同上使徒行傳第一章第二十六節)

問 使徒の字義如何

答 派遣の義なり蓋し使徒十四人は各地に往て聖教を
布する爲めに撰定せられたるを以て此名稱あるなり

(新約聖書使徒行傳第四章第三十三節及第五章第二十
九節同上ルカ福音書第十一章第四十九節及第廿二章
第十四節)

問 使徒の後嗣者は誰なるや

答 司教なり

問 宗教の眞偽を鑑別すべき確實なる徴号とは何か

答 同、聖、公、使徒傳の四件なり此四件の徴号を有するもの
は天主の親立に係る眞正の宗教にして然らざるもの
は皆偽教なり

問 同とは何か

答 教徒皆一教王の下に隸屬し教義教則各地皆同一にし
て教徒の信仰各人皆同一なるを云ふ(新約聖書エフ

エゾ書第四章第三節乃至六節同上ヨハ子福音書第十

章第十六節

問 聖とは何か

答 教義ケウギ教則ケウソク皆みな神聖シムゼイにして其教中ソノケウチュウより神聖シムゼイの人物じんぶツ聖人せいじんを

出いすを云ふ（新約聖書エフエゾ書第五章第二十六節

同上ヘブレヲ書第十三章第十二節同上ペートル第一

書第二章第九節

問 公とは何か

答 時は古今ココンを問はず所は東西トウサイを論せず人は貴賤キケン上下ジヤウカの

別べつなく共同キョウドウ一致いちして教義ケウギ教則ケウソクを守るとを云ふ（新約聖

書マテ福音書第二十八章第十九二十兩節同上ルカ

福音書第二十四章第四十六四十七の兩節同上使徒行

傳第一章第八節同上ローマ書第十章第十八節舊約聖

書マラキヤ書第一章第十一節同上詩篇第七十一章第

八節

問 使徒傳とは何か

答 使徒しとより直接ちよくせつに道統ミチスツを傳授でんじゆするとを云ふ（聖會歴史）

問 此四件このよんけんの徵号ちゆうかうを完全くわんぜんに有あする眞正しんせいの宗教しゆくは何教なにけうなる

や

答 我公われこう教けう是れなり（新約聖書使徒行傳第五章第十一節及

第八章第一節第十六章第四五兩節）

問 公教の信徒は互に兄弟と稱す其理由如何

答 其理由二あり信徒は皆天主を共父として共に之に奉事するにより其交互の關係は兄弟なりとす是れ其一事なり又信徒は相親睦して互に幫助を甲は乙の爲に祈り乙は亦甲の爲に祈り其功を共通す之を通功と云ふ譬へば肉身の兄弟が互に財産を共通するが如し是れ其二なり(新約聖書マテヲ福音書第六章第九節同上エフエゾ書第六章第十八節同上コロセ書第四章第二節同上テサロニク第一書第五章第二十五節及第二書第三章第一節同上テモテヲ第一書第二章第一節同上ヤ

コブ書第五章第十六節)

問 然らば在天の聖人が現世の信徒を幫助し又は現世の

信徒が煉獄に在る死者を幫助するを得るや

答 然り蓋し在天の聖人も煉獄の死者も共に聖會の信徒

なれば是れ亦宗教上兄弟なるを以てなり(舊約聖書イ

ザヤ書第三十七章第三十五節同上創世記第二十六章第五節及第二十四節同上出埃及記第三十二章第十三十四兩節同上マカベヲ書第二卷第十二章第四十三節乃至四十六節新約聖書マテヲ福音書第十二章第三十二節同上ヨハ子第一書第五章第十六節同上黙示録第

五章第八節及第八章第三節

問 然らば聖會は天國、煉獄、現世の三所より成立するや

答 然り故に之を分つて天國教會、煉獄教會、現世教會と稱す

問 天國教會とは何か

答 天國教會とは現世に於て魔鬼と戦ひ私慾と戦ひ惡者と戦ひ悉く之を破つて凱歌を奏したるもの、集合所

問 煉獄教會とは何か

答 煉獄教會は現世に於て犯せる罪を償ふ爲め難行苦行

問 現世教會とは何か

答 此教會に在る信徒は常に魔鬼と戦ひ私慾と戦ひ惡者と戦ひ互に陣を張て對戦中なれば亦之を稱して戰闘教會と云ふ

問 此三教會を合したるものを何と稱するや

答 天主公教會と稱し又之を略して公教會と稱し或は亦

問 聖會とは稱す

答 聖會には信徒の罪罰を免す權能あるや

問 有り洗禮と告解との秘跡に由て之を免す(洗禮告解の

事は后章に説明す

問

聖會は聖教を誤謬なく傳授するを得るや

答

聖會は天主の冥助と聖約とに由て聖教を誤謬なく傳授するを得るなり(新約聖書マテ福音書第二十八章第二十節)

問

聖會は何を基礎として聖教を傳授するや

答

聖書と聖傳とを基礎として之を傳授す

問

天主聖靈の默示に由て諸聖人の記述したる書籍是れなり之に舊約新約の區別あり(新約聖書ルカ福音書第

答

一章第七十節同上へブレヲ書第一章第一第二兩節同上ペートル第二書第一章第二十第二十一兩節)

問

舊約新約の區別如何

答

耶蘇降生以前の聖書を舊約と云ひ降生以後の聖書を新約と云ふ而して舊約の書籍を集成したるものを舊約全書と稱し新約の書籍を集成したるものを新約全書と稱す(新約聖書ヘブレヲ書第八章第九節乃至十三節及第九章第十五節同上マテ福音書第二十六章第二十八節同上コリント第二書第三章第六節)

問

聖傳とは何か

答

聖傳とは何か

問

聖傳とは何か

答

聖傳とは何か

問

聖傳とは何か

答

聖傳とは何か

問

聖傳とは何か

答

聖傳とは何か

問

聖傳とは何か

答

聖傳とは何か

問

聖傳とは何か

答

聖傳とは何か

問

聖傳とは何か

答

聖傳とは何か

答 聖傳とは口碑イヒツタヘに存する天主の聖言セイゴトバにして聖書セイショに記載キザシなきものを云ふ例へば信徒は日曜日ニチヨウビを守るべきことを定めたるが如き是れなり(新約聖書テサロニク第一書

第二章第十三節同上第二書第二章第十四節第三章第六節同上コリント第二書第三章第三節同上テモテヲ第

二書第一章第十三節)

問 聖會の掟とは何が

答 聖會に於て定めたる信徒の守るべき規則なり

問 聖會は掟を設くる權能を有するや

答 然り聖會は教民を統治する教府キョウフなれば其統治上必要スベテサマエキヨクニヨリ

なる教律キョウリツを設くる權能ケンノウなかる可らむ(新約聖書使徒行

傳第二十章第二十八節同上マテヲ福音書第十六章第

十九節及第十八章第十八節)

答 然らば教民たる信徒は聖會の教律キョウリツ則ち掟オキテを遵守ジュンシュすべ

き義務キョウムを有するや

答 然り必らむ之を遵守ジュンシュせざるべからず(新約聖書ルカ福

音書第十章第十六節同上ヘブレヲ書第十三章第十七

節同上ローマ書第十三章第一節乃至第五節同上ヨハ子

第一書第四章第六節)

問 前答は根據ある確説なるや

答

然り耶蘇の聖言に曰く汝(聖會)に聽從するものは我に
キリシタガヒ
 聽從するものなり汝を輕んぶるものは我を輕んずる
キリシタガヒ
 ものなり」と又曰く聖會に聽從せざるものは異端者又
ホカノシヤヘモノ
 は收稅吏の如し」と是れなり蓋し當時猶太國の俗收稅
シユダヤ
 吏を惡む事蛇蝎の如し故に此譬喩あるなり(新約聖書
 ルカ福音書第十章第十六節同上マテヲ福音書第十章
 第四十節及第十八章第十七第十八兩節同上ヨハ子福
 音書第十三章第二十節)
 聖會の掟は何條あるや
イリカド
 六條あり其條目は左の如し

問

答

- 第一 守るべき祝日を聖日とすべし
- 第二 主日と祝日には肅んで彌撒を聽くべし
- 第三 少なくとも年に一度は必ず告解すべし
- 第四 少なくとも年に一度は御復活日の頃に聖體
 を領くべし
- 第五 聖會の定めたる期日に大齋すべし
- 第六 金曜日及び其の他定めたる期日に小齋すべ
 し

問

答

右の規則を守らざるものは如何
 大罪なり但だ大小二齋には特免者あり
ニルサドモノ

問 大齋の特免者は如何

答 年齢二十一歳以下の未丁年者と疾病者とは特に大

齋を免するなり(新約聖書ルカ福音書第三章第三節

及第十三章第五節同上マテヲ福音書第三章第二節及

第四章第十七節第十一章第二十、二十一兩節同上マル

コ福音書第一章第四節)

問 大齋とは何か

答 晝飯を除くの外朝飯を全廢し晩飯を半減し且つ肉食

を禁ずるとなり(新約聖書マテヲ福音書第六章第十六

節同上使徒行傳第十三章第三節)

問 小齋とは何か

答 年齢七歳以上の者に肉食を禁むるとなり

問 大小齋を設立する理由如何

答 肉身を苦しめ以て罪罰を償贖する爲めなり

問 止むを得ざる事故ありて聖會の掟を守ると能はざる

ときは如何

答 其事故を靈父に申告して其免許を受くべし

問 聖會の掟を設定する理由如何

答 天主の十誡を完全に遵守せしむる爲めなり

問 聖會は現世の終末まで繼續すべきや

答 必らず繼續するなり蓋し耶蘇聖言に曰く「我汝(聖會)と
借に現世の終末まで居るべしと此の如く聖會に對す
る聖約あるを以て之を証す可し(新約聖書マテヲ福音

書第二十八章第二十節)

第七章 十誠及善徳の事

問 天主は天地万物を造成したるのみなるや

答 天主は天地万物を造成したるのみならず常に之を保
存し且つ主宰す

答 天主は殊に人の事を主宰するや

答 然り人の生命健康又衣食住を始め總て靈魂肉身に必

要なるものは悉く天主の賜のなり

問 天主は何故に斯く人を恵むや

答 天主の斯く人を恵むは人を深く愛する父なればなり

問 天主は何の爲めに人を造りたるや

答 人は智慧分別自由の徳能を具ふるに由り天主を認識

し善惡を辨別す故に能く天主に奉事して其聖命を遊

守したるものは后来之を天國に送りて無限の清福を

與へ然らざるものは之を地獄に投じて無終の苦罰を

受けしめんが爲めなり(新約聖書マテヲ福音書第四章

第十節及第二十二章第三十七節同上ルカ福音書第四

章第八節舊約聖書申命記第六章第十三節

問 人は天主に對し如何なる義務あるや

答 天主は吾人の造者即ち大父なる故に吾人は誠心誠意

を以て之に孝事し常に其命令を守らざるべからず(新

約聖書マルコ福音書第十二章第三十三節同上マテヲ

福音書第四章第十節舊約聖書申命記第六章第十三節)

問 天主は吾人の父なるに何故吾人を禍に逢はしむや

答 人に禍あるは或は試煉となり或は罪の償となり或は

未來の幸福となるに因てなり

問 聖教を心に信するも之を身に行はざるものは如何

答 之を徒信と云ふ毫も益なきなり耶蘇の聖言に曰く之

を心に信じ之を口に發するも能く天主の聖意を体し

て之を身に行はざれば益なしと是れなり(舊約聖書エ

セキエル書第十八章第二十一節新約聖書ヨハネ福音

書第十五章第十節及第十四節同上ヤコボ書第二章第

二十二節乃至二十六節)

問 天主に背反するとは恐るべきとなるや

答 天主に背反するは蛇蝎よりも甚だしく死よりも甚し

く之を恐れざるからず(新約聖書ペトロ第一書第三

章第十八節舊約聖書サビヤノス書第十四章第九節)

問 天主の聖意は何に由て知るとを得べきや

答 十誠に由て知るとを得べし

天主は十誠を何時何地に於て何人に授けられしや

答 大略開闢より二千三四百年后今より三千四五百年前

ナホヨソノロンヒラケハシメ

亞細亞洲亞刺比亞國シナイ山に於て天主は之をモ

ゼ聖人に授けられたり(舊約聖書出埃及記第十九二十

兩章)

問 天主が人性の上に銘刻せられたる良心の誠律とモ

ゼの十誠と同一なるや

答 然り但だ彼は心性の上に銘刻せられたるものなれば

之を性教と云ひ此は文字に顯はしたるものなれば之
を書教と云ひ其名稱の異なるのみにて其實は同一な

り

問 然らば此十誠を何故常にモーゼの十誠と稱するや

答 モーゼが天主の聖命を奉じて始めて之を書に筆した

るが爲めなり

問 耶蘇の宣揚したる教理とモーゼの十誠と相違する所

なきや

答 決して相違する所なし但だ耶蘇はモーゼの十誠を

嚀反覆して其奧義を闡發したるのみなり(新約聖書マ

テヲ福音書第五章第十七節

問 十誡の條目如何

答 十誡の條目は左の如し

第一 我は主なる汝の神なま我の外汝に神あるべ

からず

第二 汝主なる汝の神の名を濫に呼ぶ勿れ

第三 汝安息日を聖日となすべきことを記憶せ

し

第四 汝父母を尊敬ふべし

第五 汝殺す勿れ

第六 汝姦淫する勿れ

第七 汝盜むなかれ

第八 汝偽証する勿れ

第九 汝人の妻を戀る勿れ

第十 汝人の所有物を貪る勿れ

(舊約聖書出埃及記第二十章第一節乃至第十七節同上)

申命記第五章第六節乃至二十一節

問 第一誡を犯すべき所爲如何

答 異端を信じて偶像を拜し或は神社佛閣へ金品を寄附

し或は禁厭神符卜筮を妄信し佛陀に依し偽神に詣ふ

る等の所爲是れなり(舊約聖書出埃及記第二十章第三

節同上申命記第五章第九節)

問 第二誠を犯すべき所爲如何

答 天主に對して虚偽の誓願を爲し或は自ら故らに禍害

の來るを望み或は天主は勿論聖人を誹謗し神威を

瀆し聖事を汚す等の所爲是れなり(舊約聖書申命記第

五章第十一節)

問 第三誠を犯すべき所爲如何

答 日曜日に執業して神事を廢し當日或は閑暇あるも懶

惰にして撒彌聖祭を參拜せず或は餘財あるも吝嗇に

して飢餓者を救濟せざる等の所爲是れなり(舊約聖書

申命記第五章第十二節乃至十四節)

問 第四誠は特に親子相互の義務のみならず君臣主僕夫

妻等の關係も包含するや

答 然り

問 子が親に對する義務如何

答 從順に去て親の正命に違はず能く之を敬愛し之を奉

養し親は親ならずと雖も子は子たるの道を尽す是

れなり(舊約聖書申命記第五章第十六節同上出埃及記

第二十章第十二節)

問 親か子に對する義務如何

答 幼コウにしては能ユく之コレを愛アイ育イクし善ヤンを勸モトめ惡アクを懲コラし長チヤウじて
は聖セイ教キョウを説セツ示シし魔マ鬼キの誘ユウ害ガイを避サシしめ靈レイ魂コンの救キウ助ジュを計ハカ
るコト是コレれなり(新約聖書エフエゾ書第六章第四節同上
コロセ書第三章第二十一節)

問 信徒が教官即ち教王司教靈父に對する義務如何

答 教官は靈魂の親オヤなれば肉身ニクニの親オヤに事コトふる如コトく能ユく之コレ
に奉ホウ事ジして其ソノ正セイ命メイを守マモらざるべからず(新約聖書テモ
テヲ第一書第五章第十七節へブレヲ書第十三章第十
七節)

問 教官が信徒に對する義務如何

答 肉身ニクニの親オヤが其ソノ子コに於オけるが如コトく能ユく之コレを愛アイ撫ホし神カミ業ノリ
を勸モトめて救キウ靈レイに務ツトめざるべからず

問 國民が國王に對する義務如何

答 能ユく國クニ王ヲを尊ソウ敬ケイし其ソノ正セイ命メイを守マモり其ソノ正セイ税ゼイを納ナシむる等トウ是
れなり(新約聖書ローマ書第十三章第一節乃至七節同
上ペートロ第一書第二章第十三節乃至十七節)

問 婢僕が主人に對する義務如何

答 婢ヒ僕ボクは主シユ人ジンを敬ケイ愛アイし主シユ人ジンの財サイ貨カを尊ソウ重チュウし從ジュウ順ジュンにズて
其ソノ正セイ命メイを守マモらざるべからず(新約聖書エフエゾ書第六
二一九)

章第五節乃至八節同上コロセ書第三章第二十二節同

上テト書第二章第九節同上ペイトロ第一書第二章第

十八節

問 主人が婢僕に對する義務如何

答 主人は婢僕を愛撫し奉教を勸めて神業に従ふ閑を與

へ自ら摸範と爲りて之を善道に導かざるべからず(新約

聖書エフエゾ書第六章第九節同上コロセ書第三章第

二十五節同上ペイトロ第一書第一章第十七節同上使

徒行傳第十章第三十四節)

問 妻が夫に對する義務如何

答 夫は妻の主親上位者なれば天主の如く之を敬愛し一

意専心夫に従ひ夫に事へざるべからず(新約聖書エフ

エゾ書第五章第二十二節乃至二十四節及第三十三節)

問 夫が妻に對する義務如何

答 妻は夫の至親下位者なれば我身の如く之を愛し其力

の足らざる所を助けて之を保護せざるべからず(新約

聖書エフエゾ書第五章第二十五節乃至三十三節)

問 第五誠を犯す所爲如何

答 人を撃ち人を傷け人を殺し又は墮胎自盡若くは喧嘩

爭論する等は皆此誠を犯すなり(新約聖書テト書第三

章第九節同上ローマ書第一章第二十九節及第二章第八節第十三章第十三節同上コリント第二書第十二章第二十節同上ガラタ書第五章第二十節同上ゾヤコボ書第三章第十四節)

問

第六誠を犯す所爲如何

答

自ら邪淫を行ふは勿論淫話を聴き淫書を視淫歌を聴き淫戯を演じ或は之を心に思ふを樂み或は之を人に語るを喜ぶ等は皆此誠を犯すなり(新約聖書エフエゾ書第五章第三節同上コロセ書第三章第五節同上ガラ

タ書第五章第十九節)

問

第七誠を犯す所爲如何

答

高利を貪求する子銭家負債を完済せざる債務者及び

偷兒奸商曲吏滑僕等は是れなり(舊約聖書申命記第五章

第十九節)

問

右の七誠を犯したるときは如何すべきや

答

痛悔し且成む得たけ速に其損害を償うべき

問

第八誠を犯す所爲如何

答

虚言者誹謗者猜疑者偽証者等は是れなり(舊約聖書申命

記第五章第二十節)

問

右の八誠を犯したるとき如何すべきや

答 痛悔し且成じ得るだけ速に其損害を償ふべし

問 第九誠を犯す所爲如何

答 有夫の婦又は有婦の夫に戀慕する等是れなり(新約聖書マテヲ福音書第五章第二十八節同上ローマ書第七章第七節同上ヘブレヲ書第十三章第四節舊約聖書申命記第五章第二十一節)

問 第十誠を犯す所爲如何

答 妄りに他人の富貴を羨望し又は故なくして他人の貨財を得んと欲する等是れなり(舊約聖書申命記第五章第二十一節)

問 吾人は自力を以て十誠を完全に守るとを得べきや

答 能はず

問 然らば如何して之を守るべきや

答 謙遜にして秘跡を領し一意専心に天主の冥助を哀求し聖母マリヤ守護の天使及び諸聖人に向つて之が紹介を乞ひ戦々胸々として之に違はんことを恐れば其冥助に由て完全に之を守るとを得べし(新約聖書使徒行傳第十七章第二十八節同上フシリビ書第二章第十三節)

問 聖會は十誠を増減變更する權能を有するや

答 聖會は十誠を増減變更する權能を有するや

答 否此の如き大権能を有せむ

問 完全に十誠を遵守するものは善人と稱すべきや

答 然り眞正の善人なり(新約聖書マテチ福音書第七章第

二十一節マルコ福音書第三章第三十五節同上ヨハネ

福音書第九章第三十一節同上ローマ書第二章第十三

節同上ヤコブ書第一章第二十二節)

問 最も緊要なる善徳は何か

答 信望愛の三徳なり

問 信徳とは何か

答 天主に過誤失策又は虚偽妄誕等なきことを依信し且つ

其聖教を依信して毫も疑心なきことを云ふ(新約聖書へ

ブレチ書第十二章第六節及第三十八節)

問 信徳經の經文如何

答 左の如し

○眞理の源なる天主、主は偽る能はざる者にましますが故に我は主が聖公會に垂て我等を諭したまへる教を悉く信じ奉つる

問 望徳とは何か

答 天主の冥助によりて十誠を遵守し現世に於て善行を修せば死後天國に於て無量無限の清福を得らるべき

聖約に依頼して之を希望するを云ふ(新約聖書テサ
 ロニク第一書第四章第十二節及第五章第八節同上テ
 ト書第二章第十三節同上ヨハ子第一書第三章第三節)
 問 望徳經の經文如何
 答 左の如し

○至善なる天主は約束を違へさせ給はざる故救世主
 耶蘇基督の功徳に因て其の約束の如く我に終りなき
 生命と之を得べき聖寵とを必ず與へたまわんことを
 望み奉つる

問 愛徳とは何か

答 無上の眞情を以て天主を熱愛し又我身を愛する如く
 他人を愛すると云ふ(新約聖書コリント第一書第十
 三章第一節乃至十三節)

問 天主及び他人を愛すべき理由如何

答 天主は人類の共父なれば各人皆之を愛さるべから
 す而して人類は自他の別なく共に天主の愛子にして
 兄弟なれば他人も亦我身の如く之を愛さるべから
 す(新約聖書マルコ福音書第十二章第卅及卅一の兩節同
 上マテヲ福音書第二十二章第三十七節乃至三十九節
 同上ルカ福音書第十章第二十七節同上ヨハ子第一書

第四章第二十一節

問 愛徳經の經文如何

答 左の如し

○愛の源なる天主、主は限なく善にして又限なく愛すべき者と坐すに因、我心を盡し力を盡して深く愛せ奉つる又主を愛するが爲に他人をも我が身の如く愛せんことを務め奉つる

第八章 聖寵及祈禱の事

問 吾人は自力を以て聖教を確守し善行を修して完全なる信徒と爲るを得べきや

答 能はず(新約聖書ローマ書第七章第十八節乃至二十五節)

節

問 然らば如何せば其目的を達し得るや

答 天主の冥助と聖寵とに依頼すれば其目的を達し得べし(新約聖書コリント第一書第十五章第十節及五十七節)

節

問 冥助とは何か

答 天主は吾人に惡を避け善に就く妙力を賜ふ之を冥助と云ふ(新約聖書使徒行傳第二十六章第二十二節)

問 聖寵とは何か

答 天主は吾人に超性的恩澤を賜ふ之を聖寵と云ふ(新約

聖書ルカ書第二章第四十節同上ローマ書第六章廿三

節へブレヤ書第四章第十六節)

問 冥助と聖寵とを得る道如何

答 祈禱に由て之を得るなり耶蘇の聖言に曰く願ふもの

は之を與へん我を求むるものは之を見るを得ん門を

叩くものあれば之を開かん」と是れなり故に之を得ん

と欲せば之を求めざるべからず而して之を求むるに

は祈禱に依らざるべからず(新約聖書マテチ福音書第

七章第八節同上マルコ福音書第十一章第二十四節同

上ルカ福音書第十一章第十節テモテ第一書第四章五

節同上マヤコボ書第五章第十五節)

問 祈禱するときの用意如何

答 第一専ら天主の恩威を思ひ心を他事に移さざると第

二天主を尊敬すると第三必要の恩澤を乞願し第四罪

罰の赦免を哀求する等是れなり

問 口に經を誦するも心に赤誠なき祈禱者は如何

答 不可なり凡そ祈禱は口に經を誦するも心を他事に馳

せ或は内に信望愛の誠徳なくして誦經に由て私慾を

得んとを求むるが如きは啻に其効なきのみならず却

つて罪を得るなり例へば不孝の子が父の規言に對し
陽に之を聴受する様を裝ひ而して陰に之を冷笑する
如し不禮も亦甚だしと云ふべし故に祈禱者は心身を
天主に捧げ熱誠を以て事に従はざるべからむ(新約聖
書マテヲ福音書第七章第二十一二十二兩節及第十五
章第八節同上マルコ福音書第七章第六節及第十二章
第廿九節)
祈禱の際第一に何經を誦するや
聖架經を誦すべし
聖架經の經文及び誦法如何

問 答

答

指頭を以て身に十字架を畫しながら口に聖父と聖子
と聖靈との御名に由て亞孟と誦するなり

問

答

身に十字架を畫する理由如何
是れ心理に三位一体の天主を牢記し且つ聖子耶穌が
十字架の苦難を受けて吾人を救助し給ひし聖恩を

紀するが爲なり

問

答

其二に何經を誦するや
主禱文を誦すべし
主禱文の經文如何

問

左の如し

○天に在ます我等の父よ願はくは御名の尊敬れんことを御國の格らんことを聖旨の天に行はるゝ如く地にも行はれんことを我等の日用の糧を今日我等に與へ給へ我等が人に免す如く我等の罪を免し給へ我等を試に引き給はざれ我等を惡より援ひ給へ

亞孟(マテチ傳六章九節ルカ傳十一章三節)

問 主禰は神聖のものなるや

答 然り本經は耶蘇の親作に係るものなれば其神聖なる

と推して知るべし

問 第三に何經を誦するや

答 天使祝詞を誦すべし

問 天使祝詞の經文如何

答 左の如し

○慶たし聖寵滿充てるマリヤ主爾と共に在す爾は女の中にて祝せらる又御胎の御子耶蘇祝せられ給ふ天主の御母聖マリヤ罪人なる我等の爲に今も臨終の時も祈り給へ亞孟

問 天使祝詞は何段に分解するを得るや

答 三段に分解すべし乃ち慶たし聖寵以下祝せらる以上を第一段と爲し爾は女の中以下祝せられ給ふ以上を

第二段と爲し天主の御母以下を第三段と爲す但し爾は女の中にて祝せらるるの一句は一二兩段に交渉すれども其理由は次項以下を讀めば自ら了解すべし

問 第一段の作者如何

答 大天使ガブリエルが聖母マリヤに對して慶賀したる

祝辭なり(新約聖書ルカ福音書第一章第二十八節)

問 第二段の作者如何

答 戚族エリサベツトが聖母マリヤを問安したる際聖靈

に感動せられて聖母マリヤを慶賀したる祝辭なり(新

約聖書ルカ福音書第一章第四十二節)

問 第三段の作者如何

答 聖會の作なり蓋し聖會は救主降生後第四百三十一年

エフエヅ公教議會に於て之を議定せり

問 第四に何經を誦するや

答 使徒信經を誦すへし

問 使徒信經の經文如何

答 左の如し

○我は天地の創造主全能の父なる天主を信ぜ又其の御獨子我等の主耶穌基督即ち聖靈に由て孕み童貞マリヤより生れボシシヨビラトの管下にて苦を受

け十字架に釘られ死して葬られ古聖所に降りて三日目に死者の中より蘇り天に昇りて全能の父なる天主の右に坐し彼處より生る人と死せる人を審かん爲に來り給ふ主を信す我は聖靈、聖公會、諸聖人の通功、罪の赦免、肉身の復活終なき生命を信し奉つる
亞孟

問 使徒信經の作者如何

答 本經は使徒等が將に各地に分行して布教せんとするに際し議定したるものなり

問 使徒信經は緊要のものなるや

答 然る蓋し本經は吾人の信すへき要件を纂輯せたるものなれば信徒は常に之を誦せざるべからず

問 第五に何經を誦するや

答 告白經を誦すべし

問 告白經の經文如何

答 左の如し

○全能の天主、終生童貞なる聖マリア、大天使聖ミカエル、洗者聖ヨハネ、使徒聖ペーロ、聖ポロ及び諸聖人にむかひて告白し奉つる我は思ひ言と行を以て多くの罪を犯せり是我が過なり我が過なり我が最と

大なる過なり是に由て終生重負なる聖マツア大天

使聖ミカエル洗者聖ヨハネ使徒聖ペトロ聖ポーロ

及び諸聖人に我の爲主なる我等の神に祈られんこ

どを願ひ奉つる

願はくは全能の天主我等を憐み我等の罪を赦免し

て終なき生命へ導き給へ亞孟

願はくは全能にして慈悲なる主我等の罪を憐み其

の赦免を與へ給へ亞孟

問

答

聖會は何の爲めに告白經を作りしや

聖會は世人が誤て罪を犯し而して後來深く從前の非

問

答

行を痛悔したる場合に於て其人を救はんか爲め本經

を作りしなり古語に曰く過つて改むるに憚ると勿れ

と蓋ん此意に外ならず

問

答

前掲五篇の經文は吾人信徒に於て必らず誦すべきも

なるや

問

答

然り此五篇の經文は最も必要なるものなれば朝夕及

び魔鬼の誘惑其他靈魂の疾病に罹りたる場合に於て

は必らず之を誦せざるへからせ(舊約聖書ダニエル書

第六章第十三節新約聖書ルカ福音書第十八章第一節

同上テモテ第一書第二章第八節)

第九節 罪科の事

問 天主より降與せられたる冥助及び聖寵は如何なる協
合に於て之を失ふや

答 罪を犯すときは之を失ふ(新約聖書ヤコボ書第一章第

十五節)

問 罪に種類ありや

答 有り之を大別して源罪本罪の二類と爲し本罪を小別
して大罪小罪の二種と爲す

問 源罪とは何か

答 己に上文に説明する如く始祖亞且夏娃より遺傳する

罪を云ふ(新約聖書ローマ書第五章第十二節乃至十九

節同上エフェソ書第二章第三節)

問 本罪とは如何

答 有心故造に天主及び良心に背反する思言行あるを云
ふ

問 大罪とは何か

答 有心故造に天主の十誡又は聖會の六誡若くは事体の
重なるものを犯すを云ふ(新約聖書マテヲ福音書第

二十五章第四十一節同上ローマ書第一章第三十二節

及第八章第十三節同上ガラタ書第五章第二十一節)

問 小罪とは何か

答 事体の重大なることを知らずして誤つて之を犯し又は故意に事体の細小なるものを犯すを云ふ

問 大罪を犯したるもの、結果如何

答 天主の聖寵冥助及び耶穌基督の功徳を失ひ地獄に墮落して無終の苦罰を受くべきものとなるなり(新約聖書マテオ福音書第二十五章第四十一節乃至四十三節)

問 同上黙示録第二十章第十節)

問 小罪を犯したるもの、結果如何

答 靈魂に罪痕を刻し行善の力減し爲惡の心起り多少天

問 主に遠かり魔鬼に近づく傾向を生ずるものとなるなり(舊約聖書エシレシヤスチ書第十九章第一節)

問 犯罪の幫助者即ち吾人を罪に誘ふものは何か

答 第一魔鬼第二私慾第三醜惡の風俗習慣等は是れなり(新約聖書ペリトロ第一書第五章第八節ガラタ書第一章第十節ローマ書第七章第五節)

問 諸般の罪中最も嫌惡すべきものは何か

答 傲慢貪吝邪淫嫉妬如蝨食憤怒癩瘡の七件是れなり之を罪根と云ふ(舊約聖書エクレシヤスチ書第十章第十

五節及第十九章第二節乃至五節同上創世記第十九章

第三十三節新約聖書ガラタ書第五章第二十六節同上

ローマ書第十六章第十八節

問 罪根とは罪惡の本源と云ふ義なるや

答 然り河氷は泉源より湧出するが如く諸般の罪惡は皆

此罪根より發生するものなり

問 聖會に於て最も緊要とするものは何なるや

答 万事に超越して天主を愛敬し及び我身の如く他人を

愛するとは是れなり之を聖會の金言と云ふ(新約聖書マ

テヲ福音書第二十二章第三十七節乃至第四十節同上マ

カ福音書第十二章第三十第三十一兩節)

問 此金言の結果如何

答 天主を愛せざれば善念なく他人を愛せざれば憐心な

し而して善念及び憐念なければ惡念發して非行起る

故に此金言を守れば罪門を閉ぢ此金言を破れば罪門

を開く信徒たるもの深く思はざるべからず

問 信徒は大罪を犯したるときは如何して可なるや

答 深く衷心より其非行を悔改し天主に罪罰の赦宥を哀

願し而して後告白の秘跡を領せざるべからず(新約聖

書ルカ福音書第十三章第五節同上使徒行傳第二章第

十五章第八節同上マルコ福音書第七章第六節

問 此際誦すべき經文あるや

答 有り痛悔經是れなり

○嗚呼天主我主の限なく嫌ひ玉ふ罪を以て限なく愛

すべき聖父に背きしを深く悔み奉つる御子耶蘇基

督の流し玉る聖血の功徳に因て我が罪を赦し玉へ

聖寵の扶を以て今より心を改め再び罪を犯して聖

意に背くことあるまじと決心し奉つる

第十章 秘跡の事

問 秘跡とは何か

答 天主は無形の聖寵を吾人に降し又は吾人の罪罰を赦

す爲め有形の聖式を立つ之を秘跡と云ふ

問 秘跡は果して天主の親立に係かるものなるや

答 然り天主第二位聖子耶蘇基督の親立せられたるもの

なり

問 秘跡は何件あるや

答 七件あり洗禮堅振聖体悔悛終油品級婚姻是れなり

問 七件の秘跡中罪罰の赦宥に關するもの何件あるや

答 二件あり洗禮悔悛是れなり

問 其他の五件の秘跡の功用如何

答 是れ皆天主の聖寵を増す聖式なり

問 終身間唯だ一回領すべき秘跡は何か

答 洗禮、堅振、品級の三秘跡なり蓋し此三秘跡は吾人の靈

魂に聖跡を附する爲めなれば數回領すべき必要なき

を以てなり(新約聖書エフエゾ書第四章第五節)

第一節 洗禮の事

問 入教のとき第一に領すべき秘跡は何の

答 洗禮なり

問 洗禮は何の爲め之を領するや

答 吾人の有する源罪及び本罪の汚痕を洗除し以て天主

の聖民となりて聖寵を受けんが爲めなり(新約聖書ヨ

ハ子福音書第三章第五節及第二十二節第四章第一節

同上ローマ書第八章第一節同上使徒行傳第二章第三

十八節及第二十二章第十六節同上テト書第三章第五

節)

問 洗禮の授式如何

答 授洗者は手に聖水の容器を持し受洗者の額上に其聖

水を注ぎながら口に「我聖父と聖子と聖靈との聖名に

由て汝を洗ふ」と唱ふ是れ其式なり(新約聖書使徒行傳

第八章第三十六節同上マテヲ福音書第二十八章第十

九節同上エフエゾ書第五章第二十六節)

問 洗禮の出所如何

答 耶蘇嘗て使徒等に謂て曰く「汝等万国に行き聖父と聖子と聖靈との聖名に由て万民に洗禮を施し且つ我汝等に命せし事を彼等に守らせよ」と是れ其出所なり(新約聖書マテヲ福音書第二十八章第十九節)

問 吾人は洗禮を領せざれば死后天國の清福を享くると能はざるや

答 然り耶蘇の聖言に曰く「人は水と聖靈とを以て再び生れざれば天國に入ると能はざると是れ其証明なり(新約聖書ヨハ子福音書第三章第五節同上マルコ福音書第十六章第十六節)

問 受洗前の覺悟如何

答 受洗者は從前の非行を深く衷心より悔改し后来聖教を確守して決して之に背かざる覺悟を爲さるべからず(新約聖書ヘブルナ書第十一章第六節同上使徒行傳第二章第三十八節)

問 幼兒に洗禮を施す根據如何

答 前章に引証たる聖言中人は水と聖靈と云々とある人の字は男女老少等人類一切を包含す是れ幼兒に授

二五五

洗する第一証なり又洗禮は割禮の代替式にして割禮時代(舊約時代)に在ては幼兒にも之を施したれば洗禮も幼兒に施さるべからば是れ其第二証なり又新約聖書使徒行傳第十六章第十六節乃至三十三節及コリント第一書第一章第十六節に一家の閭族悉皆に洗禮を施したるを記し而して特に幼兒を除きたるを記さず是れ幼兒に授洗する第三証なり其他尙ほ類例ありと雖も今煩を厭ふて之を省く

問 受洗の際古聖の名を借りて我靈名となすは何の爲めか

答 其古聖に守護を依頼し又其言行を鑑として之に則る爲めなり

問 授洗の常職を有するものは誰なるや

答 司教及び靈父なり(新約聖書マテ福音書第二十八章

第十九節)

問 急病等にて聖會に行くに能はば又靈父を迎ふる違なきときは如何するや

答 何人にて其席に在るもの之に授洗すべし

問 若し其席に何人も居らざるときは如何するや

答 此場合に於ては誠心誠意を以て深く從前の非行を悔

改して天主に其赦宥を哀願し若し幸に病氣全快したるときは直に受洗すべき覺悟を爲すべし此の如くすれば必ず救霊を得るなり之を希望洗禮と云ふ

問

深く受洗を希望するも障礙ありて未だ受洗せざる中

答

聖教に殉して致命したるものは如何

答

是れ實に幸福なるものなり此の如きものは天國に於て高位を得べし之を流血洗禮と云ふ(新約聖書マテヲ

福音書第十章第三十九節同上マルコ福音書第八章第

三十五節)

問

受洗の後初志を變じたるときは聖教及び洗禮を拋棄

するを得るや

答

能はせ例へば不幸の子と雖も父母を拋棄するを能は

ざるが如く一旦受洗して天主の聖民に入籍したる上

は之を拋棄して脱せんと欲するも得べからざるなり

問

人心は變じ易くして頼み難きものなれば受洗の際の

誓言を後日再び宣誓して其心志を堅固にするとは如何

何

答

是れ極めて好事なり其時は左の堅誓經を誦すべし

○我れ受洗の際の誓言を今復び茲に宣言す我今後必

らず魔鬼を棄て非行を廢し偏に聖父を愛敬し聖教

を堅信し終生聖父の聖民たるを死期す又我は聖父の十誠及び聖會の六掟を確守し善に趨り惡を避け心身を聖父に奉獻す我は聖父の聖寵に由て死後天國に昇り聖父に近侍する榮位を得んとを切望す

問 受洗の際代父又は代母を立る理由如何

答 受洗の際代父又は代母を立る理由如何

問 聖教を堅信せしむる爲に之を立るなり

答 聖教を堅信せしむる爲に之を立るなり

問 代父母の効果及び代父母と受洗者との關係如何

答 代父母の效果及び代父母と受洗者との關係如何

問 聖トニスハ聖ボロの教弟なり同聖人の言に曰く吾人の先輩たる使徒等は授洗に際し受洗者を指導する

答 聖トニスハ聖ボロの教弟なり同聖人の言に曰く吾人の先輩たる使徒等は授洗に際し受洗者を指導する

爲め代父母を立たり此事極めて好し何となれば代父母は受洗者の靈魂の親なれば終生受洗者を指導して聖教を堅信せしむるを以てなり」と是れ其効果を云ふものなり此の如く代父母の効果顯著なれば隨つて其責任も亦た重大ならざるべからず聖オグステンの説教集第百六十三号に曰く予は受洗者の代父母に告ぐ汝等は天主に對して受洗者の証人となりしとを忘るゝと勿れ汝等は受洗者の魂靈の父母なれば之に正路を指導し聖教を死守し天主及び他人を敬愛し且つ信經に掲載せる條件を堅信せえめざるべからず」と是れ

なり又受洗者は代父母の子女なれば能く之を敬愛し
 其指導に従つて之に違はず常に肉身の父母に事ふる
 が如く時々問安し遠地旅行又は堅振婚姻の秘跡を享
 くる等凡そ重大なる事件に遇ふときは必ず代父母
 に諮問して其指揮を仰ぎ縦令叱責せらるゝとあると
 き決して之を怒るべからず聖書に曰く能く愛するも
 のは能く責むと蓋し人に善を責むるは之を愛するが
 爲めなり故に代父母と受洗者との關係は肉身の父子
 に於けると幾んど同一般なりと云ふべし

第二節 堅振の事

問 堅振の秘跡とは何か

答 聖霊と聖寵とを信徒に降し之に由て信徒の信心を堅
 固にする聖式なり

問 堅振の出所如何

答 聖會の創始に當り衆多の信徒皆已に洗禮を受たれど
 も未だ聖霊の降與を受けたるものなし當時使徒ペー
 トロ、ヨハネ、ボロの諸聖人手を以て信徒の頭上を按
 して之に聖霊を降したるとあり是れ此秘跡の出所な
 り(新約聖書使徒行傳第八章第十四節乃至十八節及第
 十九章第五第六兩節同上コリント第二書第一章第二

十一節

問 堅信を授ける常職を有するものは誰なるや

答 司教なり但だ靈父も時として法皇の特別委任を受け
て之を行ふとあり

問 堅振の授式には如何なる材料を使用するや

答 聖香油を使用す

問 堅振の授式に於て授式者が受式者の頰面を輕々手打
するは何の義なるや

答 從教者は如何なる辛苦を吃し耻辱を受るとも必らず
之に忍耐すべきことを示す

問 授式前の用意如何

答 先づ悔悛に由て心身の罪汚を洗除し靈魂を清白にし
天主に恩澤の降與を祈願し一心を神業に注入して他
念なきを要す

問 此秘跡の結果如何

答 此秘跡を受るものは靈魂に不滅の聖痕を印し天主の
強卒と爲るを以て天主は之に聖靈の七賜を降與し下
愚も上智に遷るなり

問 聖靈の七賜とは何か

答 銳智、明達、超見、剛毅、知識、孝愛、敬畏の七件是れなり

第三節 悔悛の事

問 悔悛の秘跡とは何か

答 受洗后（セント・イサワケタルノチ）犯したる罪を靈父（ハクシヤ）に（ハクシヤ）自白し靈父より命せられ

たる償贖（シヤウジヤク）を行ひ而して其罪の赦免（シヤクベン）を得る聖式（セイシキ）なり

問 悔悛の出所如何

答 耶穌（イエズ）曾て使徒等に謂て曰く汝等聖靈を受けよ汝等他人の罪を赦さば汝等の罪も亦赦されん汝等他人の罪

を赦さば汝等の罪も亦赦されん汝等他人の罪

等が地に於て繋ぐものは天に於ても亦繋かれん汝等

が地に於て解くものは天に於ても亦解かれんと又聖

書に多衆の信徒が其犯罪を自白せしとを記載せり是

れ其出所なり（新約聖書ヨハ子福音書第二十章第二十

一第二十三兩節同上マテ福音書第十八章第十八節

及第十六章第十九節同上ヤコボ書第五章第十六節）

問 此秘跡は聖會の創始より存立せしや

答 然り蓋し耶穌降生后第五百年代に於て聖會より分離

したる「シヤコビト」教「ネストリヨ」教及び千五百年代に

於て聖會より分離したる希臘教の教規中にも現に此

秘跡の存するを以て之を証すべし若し使徒時代に此

秘跡の存するとなまよせば彼等は何人より之を傳授

したる「シヤコビト」教「ネストリヨ」教及び千五百年代に

於て聖會より分離したる希臘教の教規中にも現に此

秘跡の存するを以て之を証すべし若し使徒時代に此

秘跡の存するとなまよせば彼等は何人より之を傳授

したるや故に此秘跡は聖會の創始より存立せしと明かなり

問 悔悛のときの覺悟如何

答 誠に衷心より深く從前の非行を悔改し再び斯の如き

罪を犯すべからずと堅く決心するを要す

問 赦罪の大權を有するものは誰なるや

答 法皇司教靈父なり蓋し使徒及び其后嗣者より外に此

大權を有するものなければなり(新約聖書ヨハネ福音

書第二十章第二十二第二十三兩節同上マテヲ福音書

第十八章第十八節同上使徒行傳第十九章十八節同上マ

ルコ福音書第一章第五節

問 改悛のとき其罪數を減じて自白したるものは如何

答 此の如きものは其赦免を得べからざるのみならず亦

秘跡を汚瀆する大罪を犯すものなり

問 前項の大罪を犯したるものは如何して可なるや

答 先づ誠心誠意を以て秘跡を汚瀆したる罪狀を自白し

次に前に自白して其赦免を得ざりし罪狀を再び自白

せざるべからず

問 此秘跡は數々行ふを可とするや

答 然り大罪小罪に拘はらず其違犯の都度之を行ふを可

とす又縦令毫も犯罪なしと思惟するも聖會の掟に従ひ毎年一回以上必らせ之を行はざるべからず

問 信徒あり死に臨んで告白を行はんとするも司教靈父等

不在の場合に於ては如何するや

答 誠心誠意を以て深く其非行を悔改して天主に哀求し

て其赦宥を乞ひ若し幸にして死を免れたるときは必

らず悔改を行はざるべからず此の如きものは其罪罰

の赦免を得べし之を希望悔改と云ふ

問 完全悔改とは何か

答 毫も天國の清福、地獄の苦罰を念頭に置かず唯一意専心

に天主の聖意に戻りし非行を深く衷心より悔改する

を云ふ

問 不完全悔改とは何か

答 天主の聖意に戻りし事を念頭に置かず唯だ天國の清福

を失ひ地獄の苦罰を受んとを恐れて其非行を悔改を

るを云ふ

問 完全悔改と不完全悔改との差違如何

答 悔改の状は同じと雖も其處心に高下の別あり故に其

効果にも大小の差ありとす

問 吾人は自力を以て完全悔改を爲し得るや

答 能はず故に悔改のときは天主に哀求して其冥助を仰ぐを可とす

第四節 聖体及彌撒聖祭の事

問 聖体の秘跡とは何か

答 聖言を以て麵包と葡萄酒とを耶蘇基督の眞肉眞血に

變化する聖式なり(新約聖書ルカ福音書第二十二章第

十七節乃至第二十節同上マテヲ福音書第二十六章第

二十六節乃至第二十九節)

問 通常の麵包と葡萄酒とが何故耶蘇基督の血肉に變化

するや

答 天主の全能を以て之を變化するなり

問 聖体と稱する麵包と葡萄酒との變化物は神聖のもの

なるや

答 然り天主耶蘇基督の眞肉眞血なれば無上の神聖品なり

問 此秘跡は聖會の創始より存立せしや

答 然り聖會歴史に依て之を証すべし

問 聖体を作る權能を有するものは誰なるや

答 使徒及び其後嗣者即ち法皇司教靈父のみ此權能を有

す(新約聖書ルカ福音書第二十二章第十九節及び二十

節同上へブレヲ書第五章第一節同上コリント第一書
第十一章第二十四第二十五兩節及第十章第十六第十
七兩節マルコ福音書第十四章第二十二節乃至二十四
節)

問 聖體は數々受るを可とするや

答 然り聖體は靈魂の糧食なれば數々之を受ざるべから
ず縱令止むを得ざる事故ありて數々受ると能はざる
も聖會の掟に従ひ毎年御復活前後に於て必らモ一回
以上之を受ざるべからず又危篤の疾病に罹りたると
きも之を受ざるべからず(新約聖書ヨハネ福音書第六

章第五十四乃至五十七節)

問 聖體を受るとき覺悟如何

答 肉體は齋戒沐浴して前日の午后第十二時より飲食を
絶ち靈魂は悔悛を行ふて他事を思はず而して其心身を
清潔にせざるべからず(新約聖書コリント第一書第
十一章第二十八節)

問 身に罪を負ひ而して其罪を隱匿して聖體を受るもの
は如何

答 是れ大罪なり謹んで犯すべからず若誤つて之を犯し
たるときは熱誠を注いで悔改し直ちに悔悛を行はざ

るべからず(新約聖書コリント第一書第十一章第二

七節及第二十九節)

問 前項の大罪を犯すも悔改せざるものは如何

答 天主に抛棄せられて守教の力減じ信徳衰へて魔鬼の

奴隸となり死後地獄の大罰を受べきものなり大抵聖

教を去りて異端に入るものは此大罪を犯すに起因す

豈に深く恐れざるべけんや

問 聖体を受けたる後の用意如何

答 聖体を受たるときは十五分乃至一時間聖堂に於て天

主に恩謝と熱誠を以て天主を敬愛し且つ其恩澤を祈

求せざるべからず

問 病者の薬餌と雖も聖体の受領前には之を服すると能

はざるや

答 危篤の患者は之れを許す但だ其前に靈父に其許可を

受ざるべからず

問 彌撒聖祭とは何か

答 聖体を作る聖式なり

問 彌撒聖祭に於て聖体を高擧するは何の意か

答 耶蘇がカルワリヨ山に於て自ら其聖身を天主聖父に
奉獻せし如く祭者は麵包と葡萄酒とを耶蘇の聖身に

變化カハシえて之を天主テンシ聖父セイフに奉獻ホウケンするなり(新約聖書へブ

レチ書第十三章第十節舊約聖書マラキヤ書第一章第

十一節)

問 彌撒聖祭は天主テンシに奉獻ホウケンすべきものなるや

答 然シカり

問 彌撒聖祭ミサ中古聖キコウセイの盛徳セイタクを想起シヨウキして之コレに祈願コワン恩謝インシャ等の

紹介セウカイを乞ふは如何イカニ

答 甚ハだ好ヨクし

問 彌撒聖祭ミサを行ふ所以ソノの意如何イカニ

答 其ソノ主要シュウヤクなるもの四あり一は天主テンシを禮拜レイハイし二は天主テンシに

恩謝インシャ三は罪罰ツミバツの赦宥シヨウを乞ひ四は天主テンシの冥助メイシュを求む

ると是コレれなり

問 煉獄レンキョクに在アる靈魂レイコン又は現世人ゲンゼイジンの爲ために彌撒聖祭ミサを執行シヨウギョウす

答 如何イカニ

問 極めて好ヨクま故ゆゑに信徒シントウは祭者サイシャに乞こふて時々トキトキ之コレを執行シヨウギョウす

答 可かとす(舊約聖書マカベヲ第二書第十二章第四十

三節又聖傳及トラント公教議會決議)

問 彌撒聖祭ミサを參拜サンバイするときの用意ヨウイ如何イカニ

答 天主テンシは吾人ウレタの眼メに觸ふれずと雖いへども吾人ウレタの前マエに現在ゲンゼンする

により吾人ウレタは起舉キキョ動作ドウサクに注意チュウイし誦經シュウキョウの外聲ガイセイを出ださず

深く恭敬の心を盡して祈禱拜禮せざるべからむ

問 吾人は何時に於て彌撒聖祭を參拜すべきや

答 聖會に於て定めたる祝日及毎日照日は是れなり

問 止を得ざる障礙なくして彌撒聖祭を參拜せざるもの

は如何

答 大罪なり

第五節 終油の事

問 終油の秘跡とは何か

答 聖油を病者の身軀に塗布し之に由て靈魂(時としては

肉身)を救助する聖式なり(新約聖書マヤコボ書第五章

第十四節

問 此秘跡は何時に於て受くべきものなるや

答 危篤の疾病に罹りたるとき之を受くべし

問 終油を受けたる後疾病全癒して強壯となり後來再び

大患に罹りたるときは如何するや

答 再び終油の秘跡を受るなり

問 此秘跡を受るとき用の意如何

答 悔悛を行ふて罪汚を洗除し靈魂を清潔にすべし但し

大患にして悔悛を行ひ難きものは深く衷心より非行

を悔改して天主に赦宥を哀求すべし

問 危篤の疾病に罹り終油を受んとするも靈父不在にし

て之を受くると能はざるときは如何すべきや

答 此場合に於ては一意専心に非行を悔改し天主に哀告

して其赦宥を乞願すべし

問 天患者に對する看護者の用意如何

答 患者に説諭を非行を悔改して昇天の希望を起させ生

死を天主に一任して之を苦慮せず耶蘇の受難を想起

して病苦は罪罰の償贖と觀念せしめ靈父を招いて救

霊のこを講せざるべからず
前項の場合に於て其義務を盡さざる看護者は如何

答 大罪なり

第六節 品級の事

問 品級の秘跡とは何か

答 司祭即ち靈父を撰立して之に教務を執行する位階を

授くる聖式なり

問 品級を授くる權能を有するものは誰なるや

答 司祭即ち法皇及司教なり(新約聖書テトス書第一章第

五節同上テモテオ第一書第五章第二十二節)

問 司祭の事は聖書に記載しあるや

答 然り新約聖書ヘブレテ書第五章第四節同上ローマ書第

十章第十五節其他處々に散見す

第七節 婚姻の事

問 婚姻の秘跡とは何か

答 夫婦の結縁を神聖にし且つ兩者相互の本務を完全に

履行せしむる爲め結縁者に聖寵を降す聖式なり

問 夫婦相互の本務とは何か

答 夫婦は素と一体なれば互に相愛し相助け常に親睦し

て反目せず能く家務を料理して子女を教育する等是

なり

問 夫婦一体の事は聖書に明徴あるや

答 然り新約聖書マテヲ福音書第十九章第六節に曰く「夫

婦は二人を合して一体と爲したるものなれば二にあ

らずして一なり天主の合したるものは人之を離すべ

からずと又エフエゾ書第五章第三十七節に曰く「夫婦

は一体なり此秘跡は緊要なり故に夫婦は基督と聖會

の如く一体ならざるべからずと是れなり

問 此秘跡は天主が亞且夏娃を造成したるとき創始せら

れたるものなるや

答 然り(舊約聖書創世紀第二章第二十一節乃至二十四節)

問 然らば耶蘇基督は之を完成して一個の秘跡と定めら

れたるものなるや

答 然り(新約聖書マテヲ福音書第十九章第七節乃至九節)

問 夫婦は如何なる場合に於ても配偶者と離婚して他人

と再婚すると能はざるや

答 然り(新約聖書マテヲ福音書第十九章第三節同上ルカ

福音第十六章第十八節同上コリント第一書第七章第

十第十一兩節)

問 然れども新約聖書マテヲ福音書第十九章第九節に曰

く我汝等に告ん若し姦淫の故に非ずして他婦を娶る

ものは是れ姦淫を行ふなりと此文に依れば姦淫の場

合に於ては離婚及び再婚するも障碍なきが如し如何

答 否此文意は夫婦別居を許したるものにして離婚再婚

を許したるものに非らざ其証は聖ポロの書翰に徴

して明らかなり新約聖書コリント第一書第七章第十

第十一兩節に曰く夫婦は相別るべからず之を命ぜる

は我に非らせして主なり若し別るゝとあらば必らず

嫁娶すべからせと是なり

問 吾人は必らず結婚せざるべからざるものなるや

答 否其人の任意にして必らず結婚せざるを得ざるにあ

らず(新約聖書コリント第一書第七章第八節)

問 信徒たるもの、義務は如何

答 第一万事に超越して天主を敬愛し而して我身の如く

他人を愛し第二熱心に聖教を堅信して能く聖意を体

し常に教理を學習して教規を確守し第三自家の爲め

また聖會の爲め力を尽して異端者を教諭し之を勸誘

して聖教を奉せしめ第四自家の費用を節減して之を

聖會に納れ聖教弘布の補助に供し第五言行を謹て正

道を行ひ聖會の榮譽を揚げ社會の模範と爲る等是れ

なり

問 聖堂に參詣するときの用意如何

答 聖堂に入りたるときは恭敬の念を起し兩膝を屈えて

跪禮を行ひ聖水を以て身に十字架を畫し聖体を拜し

而る後感謝祈禱すべし

問 定期の外時々聖堂に詣りて聖体を拜するは如何

答 甚だ好し信徒は務めて時々聖堂に參詣すべし

問 信徒の聖會に對する用意如何

答 信徒は聖會の事務に關し或は過慮し或は誹謗し又或

は黨を結び衆を煽して論難紛争する等は最も非事な

れば深く注意して之を避ざるべからむ

問 聖會の主人は誰なるや

答 耶穌基督なり故に信徒は他事にて教會に往きたるも
先づ聖堂に入りて耶穌に敬禮し而る後事務を執

り飯時も亦た此の如くすべし

問 若し誤つて罪を犯し靈父の譴責を受けたるときは如

何すべきや

答 誠實の信徒なれば慚愧の情に堪え深く非行を悔改し
て其過ちを再びせざる覺悟を爲すべし若し其譴責を
受るも深く意に留めずして之を等閑に附し又は其譴
責を怒りて教會に出入せざる等のとあらば是れ甚だ

しき錯念にして其罪を重ねるものなり何となれば靈
父は其文字の如く靈魂の親なれば信徒を愛する爲め
之を譴責するなり例へば肉身の父母が子を愛する爲
め其非行を譴責するが如し若し子にして其譴責を等
閑に附し又は之を怒りて父母の宅に出入せざれば之
を不孝と云ふ信徒にして靈父の譴責に従はざれば之
を不恭と云ふ其名異なりと雖其實一なり豈に深く思
はざるべけんや

問 他人の攻撃又は凌辱に遇ふを恐れて信徒たるを隠
秘し又は其凌辱に遇ふて信教の念慮を挫折し聖教を

汚したるものは如何

答

此の如きものは内心腐敗して己に天主に抛棄せられ
たるものなり孔子曰く「朽木は彫るべがらず」と之を如

何ともすべからず(新約聖書マテヲ福音書第十章第三

十三節同上マルコ福音書第八章第三十八節同上ルカ

福音書第九章第二十六節同上テモテヲ第二書第二章

第十二節)

問

然れども異端者は常に順境に處し信徒は常に逆境に
處し而して順境に在る異端者の爲に嘲弄罵詈せらる
るときは逆境に在る信徒は之を忍ばんと欲するも幾

答

んど忍ぶべからざるものあり如何

是れ亦た錯念なり耶蘇の聖言に曰く「異端者の今時の

笑語は後來無量の血涙と變じ而して信徒の今時の血

涙は後來無量の笑語と變すべし」と故に信徒は他人に

關せず唯自己の爲すべきとを爲して後來の幸福を待

つべし(新約聖書ヨハネ福音書第十六章第二十節同上

マコ福音書第四章第八第九兩節)

問

前者に反して異端者の間に介立して四周より凌辱を
受るも毅然として動かす能く信徒の面目を保ちて聖

教の名譽を毀損せざるものは如何

答

是れ眞正の信徒にして主に歡迎せらるゝものなり主の聖言に曰く衆人の前に於て我を知ると云ふものは後世天主聖父の前に於て我も亦た之を知ると云はん

是なり(新約聖書マテ福音書第十章第三十二節同)

上ルカ福音書第十二章第八節同上ヨハ子第一書第四

章第十五節

問

新約聖書マテ福音書第十章第二十八節に曰く「肉身を殺すも靈魂を殺す能はざるものを懼るゝと勿れ唯だ汝等は靈魂と肉身とを地獄に陥るものを懼れよ」とあり此文意如何

答

肉身を殺すものは兇行者にして靈魂を殺すものは誘悪者なり而して肉身の生命は有期にして靈魂の生命は無期なる故に有期なる肉身の生命を殺す兇行者よりも無期なる靈魂の生命を殺す誘悪者を懼れて之を規避せよとの義なり

問

口に教理を談するも心に之を信じて行はざるものは如何

答

之を徒信と云ふ毫も益なきなり耶蘇の聖言に曰く「我を喚で主よ主よと云ふものは尽く天國に入るべきものに非らず唯だ天國に入るべきものは心に之を信じ

身みに之これを行なふもののみなりと是これなり故ゆに信しん徒とは口くち説せつより身しん行かうを先まにせざるべからず(新約聖書マテヲ

福音書第七章第二十一節同上ルカ福音書第六章第四十六節)

問

吾人われの最大さいだい急務きゅうむは何なにか

救きう靈れい事じ務むなり耶蘇イエズスの聖言せいげんに曰いはく人ひとは世せ界かいの万物ばんぶつを得と

るも救きう靈れいを失うへば益えきなしと然しからば則すなはち吾人われは現世げんせいの

假福かりふくを得とるを務むむるよりも天國てんこくの眞福まふくを得とるを務む

めざるべからず(新約聖書マテヲ福音書第十六章第二

十六節同上マルコ福音書第八章第三十六節同上ルカ

福音書第九章第二十五節)

問

耶蘇イエズス基督キリストの聖言せいげんは皆みな確かく實じつにして毫ちとも誤ご謬べうなきや

然しかり耶蘇イエズス基督キリストの聖言せいげんに曰いはく天地てんちは時ときあつて廢はいすべし

然しかれども天主てんしゆの聖言せいげんは終つひに廢はいすべからずと天主てんしゆは即すなはち

耶蘇イエズス基督キリストにして耶蘇イエズス基督キリストは即すなはち天主てんしゆなれば其その聖言せいげん

の確かく平へい不ふ動どうなるを以もつて証しょうすべし(新約聖書ルカ福

音書第二十一章第三十三節同上マルコ福音書第十三

章第三十一節同上マテヲ福音書第二十四章第三十五

節)

一日客あり門を叩く延て之を座に致し寒暖の禮終り茶菓
 の供あり客曰く主人頃日公教要旨の大著ありと聞く敢て
 一覽の榮を乞ふと予此書を出して曰く區々の小著何ぞ君
 子の高覽に價すべけんやと客翻閱數番して曰く大著は靜
 看を要す草卒に讀過すべからず少時借讀する可ならんや
 と予曰く可なりと客之を携帶して去り後數日を過ぎ客復
 た來訪し前書を出して曰く此書云ふ所悉く金玉の至論な
 り公教の真教たる所以異端の假教たる所以真教の唯一た
 る所以假教の多教たる所以等は皆此書に由て知了するを
 得べし特り怪しむ世間の異端者は相率ゐて公教を攻撃す

れども公教は門を閉ぢ旗を伏せて更に之と應戦せざるを
 主人乞ふ高論を答ますて僕の疑團を氷解せよと予曰
 く試に眼を放つて世上の事物を通觀せよ此に真あれば彼
 に假あり此に善あれば彼に惡あり汚あり潔あり柔あり剛
 あり然り而して一物の存在する所は他物其所を奪ふに非
 ざれば此に占居すると能はざるにより假者は真者を倒し
 て之を奪はんと欲し惡者は善者を排して之を併せんと欲
 し茲に於て戰鬪争奪起る是れ豈に事物の通勢に非らざるや
 真者善者は久ふして愈々光輝を發し假者惡者は久ふして
 愈々破綻を生し而して光輝を發するものは永存し破綻を

生ずるものは瘵滅すべきは是れ豈に事物の通理に非らず
 や宗教も此理勢の規則に漏ず故に假者たる異端は眞者た
 る公教の位地を奪はんと欲して頻りに戦闘を挑むと雖も
 是れ猶ほ小童が勇者に對して角力を求むるが如し小童は
 負るも尙ほ勇名を得而して勇者は勝つも榮名を加へず彼
 に得あつて我に益なし勇者たるもの何を苦んで小童と力
 を角する愚を爲さんや狂者奔つて不狂者も亦た奔らば不
 狂者も亦た狂者の名を受るに至る是れ我公教が異端の挑
 戦に應ぜざる所以なり我豈に異端を恐れんや我豈に異端
 を恐れんや唯だ大勇の道自ら然らざるを得ずと答唯々と

して去る

世人大勇を知らずして小勇を好むものあり之を蛇勇と云

ふ佛人ドラフンテンの道德的說話に曰く某所の時計工

場に數個の鑢子と鐵片と一頭の痴蛇あり痴蛇は短智淺聞

にして血氣の勇に誇り鑢子が多力を費さずして鐵片を削

去し終に之を粉碎するを見て心裡窮かに思へらく彼鑢子

鐵片より強さも我齒牙彼より弱からんやと乃ち鐵片を把

て口内に納れ縦横に咀嚼すれども毫も破碎せざるを以て

痴蛇は忿々として怒りに堪へず乃ち鐵片を捨て鑢子を把

て再々之を咀嚼すれば憂々として聲を發す茲に於て痴蛇

心理大に喜び思へらく、鏢子破砕して完形なしと已にして、口を開て之を撿すれば何ぞ圖らん、鏢子は依然として原形を存じ而して、齒牙は皆碎破して一個も存するものなし、之を見て、痴蛇は勇氣俄に阻喪し、齒牙なき爲め、食料を咀嚼するも能はず、營養足らず、元氣衰弱し、久しからずして死亡せり、是れ假話なりと雖も、以て異端の公教を攻撃するに喩ふべし、異端は痴蛇にして、公教は鏢子なり、異端たるもの智を尽し、力を竭して、公教を攻撃するも、其結果は公教を傷つくるも能はずして、却つて自ら傷つけて、死滅を招くと、恰も痴蛇が鏢子を亡さんとして、自ら亡びたるが如し、故に今日

存する所の無数の異端も、久しからざしで、悉く滅亡に皈すべきものなり、ホスエ曰く、「此事今年遂ぎれば、明年を待ん、十年にして遂ぎれば、百年を待ん、此の如くにして、數百年を経過せば、公教特り凱歌を奏し、異端は皆敗亡すべし、蓋し假は眞に勝ず、劣は優に敗ず、は自然の定理なればなり、と是れなり、之を以て異端者中に於ても、先見卓識を有するものは、皆最後の勝利者は公教なり、と云はざるはなし、今其一証として、新教の博識家にして、英國の政事家たるマコレーが千八百四十年エヂンブルと題する雑誌に掲載したる一文を左に譯載すべし、

凡る地球上省察及び調査の價直を有するものは未だ嘗て
 公教會の如きもの有ざるなり其歴史は遠く原を希臘及び
 羅馬の上古に發し爾來法統連綿として今日に至れり故に
 全歐中之と匹敵すべき歴史を有する制度は一も見るとな
 く又最も古舊の歴史を有する諸皇室も此を彼に比すれば
 其新しきと猶ほ昨日の開基の如し然り而して此古老の公
 教は今日に至るも毫も衰弱の色なく元氣益々強盛を致し
 運動愈々活潑を加へ世界中東隅西端にも皆宣教師を派遣
 し而して其宣教師の英邁博識にして信徳の堅固なるは實
 に驚くに堪へたり又其信徒の員數は未嘗有の大數にして

實に三億の多さに上れり我新教の如きは各派の信徒を合
 算するも其員數は僅に公教の一半にだも及ばざるなり夫
 れ公教より後に生れたる歐洲各國の政府は幾多の革命を
 經たれども其政府より前に生れたる公教は一も革命を經
 ずして今日に經續せり故に此理を以て推せば將來各國の
 政府は全滅する時期に至るも特り公教は依然として強盛
 を致すと明らかかなり然るに新教徒は常に曰く學術の進歩
 は新教を利用して公教に害すと是れ甚だしき謬見にて事
 實は全く反對の結果を呈せり是に由て之を觀れば新教の
 壽命は短期にして公教の壽命は無期なるを多辨を要せず

して明からなるべし云々

新教の大家たるマコレーにして此言を爲す異端の運命も

亦た知るべきなり吾人は茲に筆を擱するに當り恭しく之

を天主に感謝祈禱せざるべからむ

嗚呼在天の天主聖父よ吾人は茲に聖父の冥助の高恩を大

謝す聖父よ仰ぎ願くは彼等異端者の上に慈念を垂れ彼等

をして悉く公教に皈順せしめ耶穌基督の聖言の如く世界

の洗禮、信仰、群羊、牧者等悉く唯一に皈さんとを切望すア

メン

公教要旨下編畢

明治二十九年十二月十六日印刷
明治二十九年十二月廿三日發行

實價金拾五錢

教皇派遣宣教師佛國人

原著者

エルチス、オグステン、ツルメン

愛知縣名古屋市中市場町五十九番戶

發行兼編輯人 天主教會

愛知縣名古屋市中市場町二番戶寄留

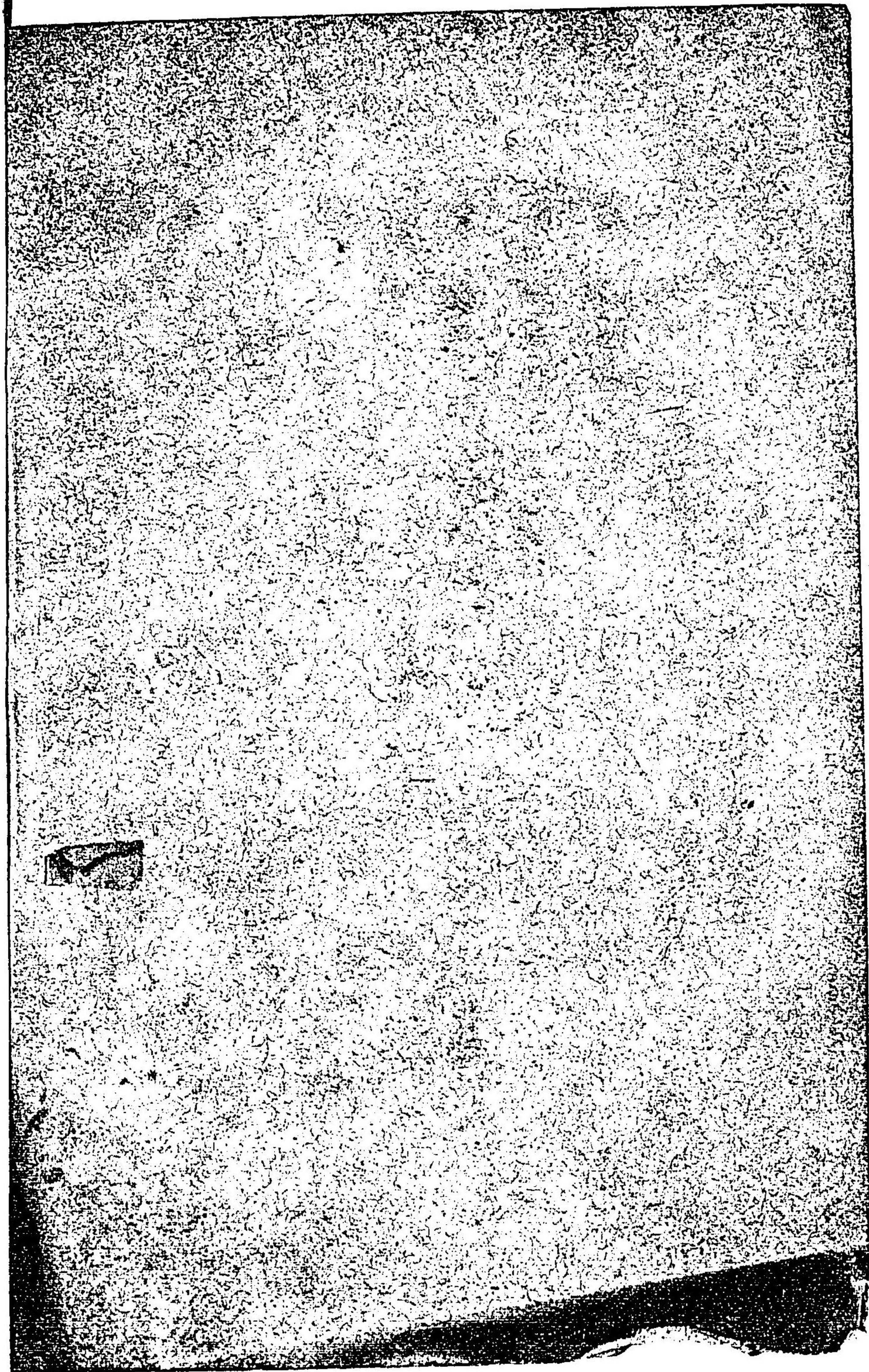
天主教會代表者 菅井三九郎

愛知縣名古屋市中市場町七番戶

印刷者 近藤堅之助

愛知縣名古屋市中市場町七番戶

印刷所 近藤活版印刷所



020626-000-2

特18-314

公教要旨

エルネス・オグステン・ツルペン/原著

M29

ABI-0442

